



にしあさけ

第4号

令和元年9月2日(月)

四日市市立西朝明中学校

<全国学力・学習状況調査の結果について>

4月18日に実施された平成31(令和元)年度全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。本校の学力や生徒の状況について分析した結果をお知らせします。本年度は、国語・数学・英語の3教科で調査が実施され、今年度から始まった英語の調査では、ヘッドセットを用いて「話すこと」についても調査がありました。3年生の皆さんには、9月5日(木)に個人票を返却しますので、自分の結果について振り返ってみてください。



【学力の状況】

本校の正答率は、すべての実施科目(国語・数学・英語)において全国平均を上回りました。(英語の「話すこと」では、全国の前答率とほぼ同じでしたが、英語全体としては、全国の数値を上回っています。)特に、数学と「話すこと」を除いた英語では、全国の前答率を大きく上回り、十分に満足のできる結果となりました。また、無解答率はすべての科目で全国の前値を下回っており、特に数学では、全国の前値の半分以下でした。このことは、多くの生徒が真剣にこの学力調査に取り組み、粘り強く問題解決に向けて努力した結果だと言えます。

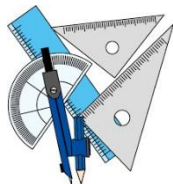


<国語>

得点分布は全国とほぼ同じ状況ですが、正答数が4問以下の割合が全国の前分以下であることと、10問中9問正解者の割合が多いことが、全体の正答率を引き上げています。領域ごとの結果でも、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のすべての領域で全国の前答率を上回っています。全体として良好な結果の中で、「書く」問題で無解答が多かったことが今後の課題と考えられます。今後は、「書く表現活動」を重点とし、併せて「読み取り」や「漢字・古典・文法問題」を取り入れた授業を進めていきます。

<数学>

全国の前点分布と比べると、平均点よりも上位の層が多く、中央値が2ポイントほど上位になっています。また、正答数が4問以下の割合が全国の前約3分の1となっていることで、大変良好な結果となりました。「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で全国の前答率を上回るとともに、問題ごとの正答率でも、すべての問題で全国・県の前答率を上回っています。生徒が苦手と感じている記述式の問題においてもしっかりと回答できたことはとてもよい成果でした。今後も課題に対して粘り強く取り組み、しっかりと記述して解答できるような授業を進めていきます。



<英語>

「話すこと」を除いた得点分布では、正答数5問以下の生徒が0%であることと、平均点よりも少し上位の生徒の割合が多いことで、中央値が2ポイント程上位になり、大変良好な結果となっています。「話すこと」(今年度は参考値)の前点分布は全国の前分布とほぼ同じでしたが、本校では全問正解者(全国で1%)がいませんでした。

今後の授業では、コミュニケーションの力をつける場面においても、正確に話すことにも注意を払いながら活動ができるような授業を進めていきます。



【生徒の状況】

生徒質問紙による本校の3年生の状況は以下のようになりました。

① 毎日同じくらいの時間に起床し、朝食をきちんと摂っている生徒は「どちらかといえば」を含めると約95%で、全国の値に比べて高い割合でした。一方で、同じくらいの時間に就寝するという生徒は約70%で全国の値に比べて10ポイント以上低い値でした。朝はきちんと起きて、朝食をしっかりと摂って登校できていますが、就寝時刻についてはばらつきがあることがわかりました。ゲームやSNSなどの影響が心配されます。



② 約80%の生徒が、将来の夢や希望を持っているとし、「自分には良いところがある。」「自分の良いところを認めてくれる。」と答えた生徒は、それぞれ約80%、約90%でともに全国の値より高く、自己肯定感や自己有用感が高いことが伺われました。また、物事を最後までやり遂げた達成感を感じたことのある生徒が多い一方で、失敗を恐れずに挑戦する力がやや弱いことも現れてきました。

③ 多くの生徒は学校が楽しく、決まりを守って学校生活を送っています。また、「人の役に立つ人間になりたい」と考えている生徒が90%を超え、人が困っているときは進んで助けようとし、いじめはどんな理由があってもいけないと考えています。

④ 学校外での平日の学習時間は、3時間以上の生徒が約5%、2～3時間の生徒が約35%、2時間未満の生徒が約60%でした。昨年度の調査に比べて若干学習時間が伸びて全国の値とほぼ同じといえますが、特に2時間未満の生徒については、計画的に学習を進めていないと答えた約50%の生徒と重なることが推察されます。中学3年生として、目標を持ち計画的に家庭学習を進める力をつける必要性が感じられました。

⑤ 学校での授業については、ICT機器を活用した授業に対する関心が高く、「話し合い活動によって、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」と回答した生徒が80%以上でした。また、授業が大切で授業で学んだことを他の学習に活かしたいと考える生徒の割合も同様に高い値でした。

⑥ 平日に30分以上読書をしている生徒は約20%で昨年とほぼ同じでしたが、全国の値に比べて5ポイント以上低い値でした。「読書が好き」と答えた生徒の割合も全国に比べて低く、「図書室をほとんど利用しない」と答えた生徒が70%近くありました。朝の読書の時間にはまじめに本を読んでいる姿が見られますが、読書の時間以外にも本を読む習慣を身につけてもらいたいと思います。



学校としても読書への関心を高める取り組みや図書室の利用促進について考えていかなければなりません。家庭においても読書に親しんでもらえるような環境づくりをお願いします。

⑦ 地域の行事に積極的に参加したり、地域や社会のことを考えたりすることについては、半数以上の生徒が当てはまると答えており、地域の方との交流や地域学習の成果が表れているといえます。

【まとめ】

本年度の調査結果は、学力面では大変良い結果を得ることができました。このことは、普段から、興味関心を持って1時間1時間の授業を受け、基礎基本を大切にして粘り強く課題解決に取り組んできたことの成果と考えられます。今後も継続的に授業改善を進め、さらなる学力の向上を目指していきたいと思います。生徒質問紙からは、本校にはまじめでしっかりとした目標を持ち、その目標に対して努力することができる生徒が多く、思いやりや優しさも感じ取ることができました。



一方で、読書や新聞を読むことが習慣づいていない生徒が多いことが浮き彫りとなりました。国語や社会の授業だけでなく、いろいろな機会をとらえて、活字に触れる場面を作り出していくことが必要と思われます。学校では、今後も一人ひとりの生徒を大切にし、個々の成長とともに集団としての社会性や協調性を育み、社会の一員として将来にわたって活躍できる生徒の育成を目指して、様々な取り組みを進めてまいります。引き続き保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。